

令和3年度あやべ観光デジタルフォトコンクール

総評:いまなお続くコロナ禍の状況にあって、昨年もイベントの多くが中止になるなど、撮影テーマ探しに苦労されたことと思います。そんな中でも応募点数が増えたのは、デジカメなどが身近になり写真愛好者が増えた結果だと想像されます。これからも、フレッシュな感覚を生かし「あやべ」の魅力を再発見した写真を期待しています。

中田昭（公社・日本写真家協会 会員）

●大賞

綾部市長賞「輝く水源の里」松岡秀雄

晴れ渡った青空を水面に映し、煌めきを逆光で表現して、畑口川の水源の清流イメージを見事に捉えた作品。撮影場所探しや天候条件など、試行錯誤の末生まれた秀作だと想像される。望遠レンズの圧縮効果も効果的である。

●特選

綾部商工会議所賞「夏灯かり」野々垣泰輝

夏の夜、光を使ったイベントのひとつを捉えた作品で、ブルー基調の画面に光球を掴んだ子供の手がシルエットとなり画面のポイントとなっている。

綾部市文化協会賞「かやぶきの寺 岩王寺」

白木勇治

地面の散紅葉とかやぶき屋根の建物が、朦朧とした朝霧によって包まれ、遠近感が生まれた。晩秋の風情を存分に感じさせてくれる作品となった。

京都新聞賞「ココロノトモヨ」佐渡真依

撮影者(お母さん?)が身近な人だったので、なによりも3人の女の子の自然な表情が良い。背景のコスモス畑の広さや、空の色が画面を一層引き立てたと思う。

あやべ市民新聞社賞「朝日とコスモス」

飛澤一毅

力強い朝日が、逆光でコスモスの花を浮かび
上がらせ、広々とした秋空の色合いや山並み
との組み合わせで力強い画面となった。教会
の建物が、アイストップとして画面を引き締
めている。

京都府観光連盟賞「天空の藤山公園」

中山茂樹

ドローンを使って雄大な山容を斜光線で捉え、
木々にも立体感が加わった。背景の霧に囲ま
れた町並みと青空も一体となり、迫力を感じ
させる作品となった。

●入選

「雪帽子」福井齊

春に咲くミツマタの群生に雪が降った早朝、
季節の狭間にタイミング良くカメラを向けた
作者の狙い所が評価出来る。

「雲海の朝」細川洋子

山並みの重なりや黄金色に輝いた雲海が、自然の荘厳さを感じさせる。手前の山に紅葉の赤が残っていたのも良かった。

「神秘の森」朝子政司

ヒメボタルの光跡を美しく画面に捉えた秀作で、作者の力量が感じられる。特に画面下のブルーの色調により神秘さが伝わってきた。

「夢の入り口」朝子政司

雨上がりの地面に反射したイルミネーションを効果的に使い、現実から夢の世界へ誘うような仕掛けで画面に惹きつけられた。

「田園」森下健太

水田や川面に映る美しい夕空を、大きな広がりで見つけた秀作で、カメラを三脚に固定し慎重にシャッターを切ったことが想像される。

「風薫る」 森川清美

テーブルに映り込んだ初夏の緑と風鈴。画面全体の彩度を上げて色調整した創作色だが、季節の力強さが伝わってくる。

「神夕刻」 夜久昇司

晩秋の紅葉風景を、夕刻の光で捉えた秀作。画面から感じる色の濃さは、カメラの適正露出からマイナスに補整した作者の創作で、その意図が伝わってくる。

「高倉神社夫婦杉」 鈴木隆

雪景色の中に佇む大木の夫婦杉。間を結んだ一本のしめ縄によって、荘厳さが伝わってくる。さらに光や天候条件を加味するとさらに神秘性が増すと思う。

「朝霧に濡れるコスモス」阿比留健次

早朝の朝露は、花々に潤いと優しい色彩を与える。そんな状況を深く知り、背景に朝霧がたなびく条件でソフトな仕上がりになった。

「見晴らし良好」田中雅之

古墳公園の頂上に立つ家族3人を、力強い雲とともに大きな空の中に配置し、雄大な自然の広がりとともに旅心誘われる作品。